

1. 中国武漢で新型コロナウイルス

- 中国の武漢市で新型コロナウイルスが原因で、大量感染と大量死が発生し、武漢市は完全封鎖され、ロックダウンされた。
- この新型コロナは、武漢ウイルス研究所の職員が感染したことから、あっという間に武漢市全体に感染拡大し中国全体にも感染拡大していった。
- 中国人旅行者により新型コロナが世界に拡散され、欧米やアジア、日本へさえも感染拡大し、各国で何万人もの人々に感染し、何千人もの死者が出た。
- しかし、世界では未知の新型コロナウイルスでしたが、武漢ウイルス研究所では、自分の研究所で開発したコロナウイルスだったから、遺伝子情報を持っていました。

2. 新型コロナワクチン

- 世界での新型コロナ感染拡大と死者急増に対して、コロナワクチン開発を急務とし唯一の新型コロナ対策として、未知の mRNA ワクチン開発に着手するしかなく状況でした。
- しかし、mRNA ワクチンはウイルス遺伝子情報が無いと作れないものなので、唯一コロナ遺伝子情報を持っている、コロナウイルス開発していた中国から遺伝子情報が提供され、ファイザー社やモデルナ社などの世界のワクチン開発会社で、新型コロナワクチン開発が開始されました。
- mRNA コロナワクチンは、まだ開発段階だったので、2023 年まで治験期間として世界各国が受け入れる契約を、ワクチン会社とするしかありませんでした。治験期間の薬に対して、投薬者たちは訴えることができない上、たとえ死んでも慰謝料を取ることも出来ません。更に国は、契約の関係で治験期間に国民に不具合があっても、ワクチン接種を継続するしかありません。
- コロナウイルスの特徴は、変異を繰り返すことなので、感染者の体内で繰り返し変異をしています。つまり、新型コロナが武漢で感染拡大し外部に流出した時から、変異を繰り返しているのです。世界が恐れたのは、いつか、武漢のコロナ遺伝子情報から開発されたコロナワクチンが効かない変異株コロナウイルスが、どこかの国で出現する、ということでした。
- インドで感染爆発した、新型コロナデルタ株がワクチン接種した人々に次々に感染して、インドはロックダウンすることになった。ついにコロナワクチンが効かない新型コロナの変異が起こりました。しかし、世界の国の政府政策は、コロナワクチン接種の続行でした。なぜなら、ワクチン供給会社との 2023 年までの治験契約があるからですし、完全供給停止されても困るからです。

3. mRNA ワクチンと免疫反応の性質

- mRNA ワクチンとは、ウイルスの遺伝子情報から一部を取り出し、この遺伝子の塊の外側に外皮を作り、外皮の外側にスパイク状のたんぱく質を取り付けた人造ウイルスなのです。
- このスパイクタンパク質の特徴は、mRNA メッセンジャーRNA と呼ばれ、人間の体の中で受容体レセプターと結合し、この人造ウイルスと同じものを体の中で大量にコピー量産させ、免疫反応を起こさせ、新型コロナ特定免疫を形成させるものです。
- 人間の体の特徴として、自然免疫力であらゆる細菌やウイルスに対する免疫力を発揮していますが、自然免疫を突破した細菌やウイルスが入って来ると、それに対する特定免疫力が形成され、結果として自然免疫力が低下する性質があります。

4. mRNA ワクチンと副反応

- 私たちの体の中で、mRNA ワクチンにより人造ウイルスが大量に生産され、無数の mRNA スパイクタンパクが血管の血液中を流れ、体中で無数の血栓症を起こし、数々の疾患となります。血栓症の症状は、血行不良性の機能障害や動脈瘤や壊死や血管破裂など激痛も伴います。
- スパイクタンパクが、体の臓器に蓄積されて機能不全を起こすので、症状は多種多様です。心臓疾患、肺炎、脳梗塞、腎臓病、目の視力低下、耳の聴力低下、卵巣(不妊、流産)、精巣など、毛細血管の多い臓器に蓄積されやすい。また、持続性の腰、肩、腕、足、膝などの痛み。

- コロナワクチンの免疫反応による、発熱暴走や蕁麻疹や带状疱疹や自己免疫障害などです。
- 同型のワクチンを3回以上摂取すると、アナフィラキシーショックや免疫不全を起こします。
- 持病の人は、症状の悪化が進み死に至ることも、また認知症やアルツハイマーでは悪化します。
- 原因不明の突然死が多発し、心不全などによる死亡者が急増します。

5. mRNA ワクチンとデルタ株以降のコロナ

- もし、mRNA ワクチン接種をした体に、大きく変異してワクチンが効かない新型コロナウイルスが入って来たなら、特定免疫力が効かない上に自然免疫力が低下したことで新型コロナウイルスに感染し、結果的に新型コロナで重症化してしまいます。
- コロナのデルタ株以降が、まさにコロナワクチンが効かない新型コロナだったのです。つまり、デルタ株以降の変異株オミクロンでは、弱毒風邪である上にコロナワクチンが効かないので、無力なコロナワクチンとなりました。最悪なことに、コロナワクチンは副反応の害が人体にあるだけの有害人造ウイルスとなり、更に他の人へ感染する恐れが生じました。
- 残念なことに、コロナワクチンで特定免疫力を付けた体は、免疫システムの関係で自然免疫力が低下して、その他の病気にかかりやすい虚弱体質になってしまいます。言うならば、コロナワクチンは万病の元であり、過去の mRNA ワクチンが重症化や感染拡大により使用禁止にされてきた歴史と同じに、今回の mRNA ワクチンも同じ経過をたどっています。
- 過去も現在も、mRNA ワクチンは繰り返し摂取が危険であると専門科学者たちに指摘されていて、サイトカインストーム(免疫暴走)による免疫不全で、数々の炎症性疾患と血栓症と持病悪化が起こり、最悪は死亡者が急増するとされておりま。

6. コロナワクチン複数回接種後の危険性

- コロナワクチン複数回摂取者が他種のワクチンを接種した時に、ワクチンウイルスに感染し発病する危険性です。例えば、インフルエンザワクチンでインフルエンザに感染する危険性などです。
- mRNA ワクチンの特徴である、メッセンジャー遺伝子を体内で繁殖させているので、体質変異が年単位で続き、今後、色々な不調が体に出現する危険性があります。

* 厚労省の総死亡数データを掲載しましたが、接種回数が増えると死亡者数も上がっています。2011年東日本大震災時の超過死亡者数は5万人で、2022年コロナワクチン時は13万人であり大震災時の2.5倍なので、ワクチン大災害とも言えます。現在、超過死亡者増加傾向です。

